【資料２】

栃木県保健医療計画（８期計画）について

栃木県がん対策推進協議会

令和８（2026）年10月22日（木）

栃木県保健福祉部感染症・疾病対策課

1．栃木県保健医療計画（８期計画）の中間見直しについて

2．がん分野について

1．栃木県保健医療計画（８期計画）の中間見直しについて

2．がん分野について

栃木県保健医療計画（８期計画）について

第１回栃木県医療審議会保健医療計画部会
令和8(2026)年6月30日　資料一部抜粋

【策定の趣旨】

- 本県では昭和63(1988)年に「栃木県保健医療計画（１期計画）」を策定して以来、時代の変化に応じた見直しを行いながら、各種施策に取り組んできた
- ８期計画策定時点においては、少子高齢化の進行により**医療・介護ニーズの増大**が見込まれるほか、県民のニーズが多様化・高度化するなど保健医療を取り巻く環境が変化してきており、また、**新型コロナウイルス感染症の感染拡大**を経験し必要な医療を一体的に提供することの重要性が改めて認識されたところ
- こうした状況を踏まえ、安全で質の高い、かつ持続可能な医療提供体制の確保に加え、保健・福祉・介護サービスの連携を図ることにより、県民誰もが住み慣れた地域において、健康で安心して暮らすことができる栃木県の実現を目指し、**令和６(2024)年３月に栃木県保健医療計画（８期計画）を策定**した

【基本理念】

- **県民が安全・安心に暮らすための保健・医療・介護提供体制の構築**
  - 安全で質の高い適切な医療を効率的に提供できる体制の整備充実を図るとともに、保健・医療・介護・福祉サービスとの一体的な提供の充実を図る
  - 県民誰もが住み慣れた地域において、生涯健康で安心して暮らすことができる環境の実現を目指す
  - 感染症や災害等の有事が発生した場合においても必要な医療等を受けることができる体制の構築を目指す

【計画の位置づけ】

- **本県の保健医療対策に関する基本的な方向性を示す計画**
- **医療法第30条の４第１項の規定に基づく計画**
- 栃木県重点戦略「とちぎ未来創造プラン」を踏まえた計画
- 保健、医療、介護、福祉に関する諸計画と調和が保たれた計画

【計画期間】

- **６ヶ年計画**（ 令和６(2024)年度 ～ 令和11(2029)年度 ）

栃木県保健医療計画（８期計画）について

第１回栃木県医療審議会保健医療計画部会
令和8(2026)年6月30日　資料一部抜粋

【計画の構成】

- 本県の保健医療に係る基本的な方向性を定める計画であり、関係項目について網羅的に記載されている

	目　次	キーワード
第１章	保健医療計画の基本的な事項	趣旨、基本理念
第２章	栃木県の保健・医療の現状	人口、医療資源の状況
第３章	**保健医療圏と基準病床数**	保健医療圏、基準病床数
第４章	良質で効率的な医療の確保	医療機能、かかりつけ医
第５章	**５疾病・６事業及び在宅医療の医療連携体制** ※５疾病・６事業は以下のとおり ①がん ②脳卒中 ③心筋梗塞等の心血管疾患 ④糖尿病 ⑤精神疾患 ⑥救急医療 ⑦災害医療 ⑧新興感染症発生・まん延時における医療 ⑨へき地医療 ⑩周産期医療 ⑪小児救急を含む小児医療	５疾病・６事業、在宅医療
第６章	地域医療構想の取組	地域医療構想
第７章	**外来医療計画の取組**	外来医療計画
第８章	各分野の医療体制の充実	感染症、移植医療、難病
第９章	保健・医療・介護・福祉の総合的な取組の推進	高齢者福祉、自殺対策
第10章	**保健・医療・介護・福祉を支える人材の確保・育成**	**医師確保計画**、各医療関係職の確保・育成
第11章	計画の周知及び推進体制	計画の周知、推進体制

中間見直しについて

【中間見直しの必要性】

- 医療法第30条の６において、次のとおり定められている
  - 医療計画全体　　６年ごとに、必要がある場合は見直し
  - 在宅医療及びその他必要な事項　　３年ごとに、必要がある場合は見直し
- 医師確保計画、外来医療計画については、既存の計画が令和８(2026)年度末を終期とする８期前期計画であることから、８期後期計画の策定が必要

【中間見直しの対象箇所】

- 栃木県保健医療計画（８期計画）は令和６(2024)年度を初年度、令和11(2029)年度を目標年度とする６ヶ年計画であり、同計画において「**在宅医療**、**栃木県医師確保計画**及び**栃木県外来医療計画**、その他必要な事項については、３年ごとに調査、分析及び評価を行い、計画の見直しを行います」としており、３年目である**令和８(2026)年度中**に対応する必要がある
- 「その他必要な事項」として、**５疾病・６事業**について、各指標の整理（現状把握）及び今後の対応方針について検討を行うことを予定している（各疾病対策協議会等にて分野ごと協議を行う）

対象箇所	対応	協議の場
５疾病・６事業 及び 在宅医療	中間見直し	医療審議会保健医療計画部会 （各疾病対策協議会等）
医師確保計画	８期後期計画策定	地域医療対策協議会
外来医療計画	８期後期計画策定	地域医療構想調整会議

- **精神病床**については、令和８(2026)年６月10日国事務連絡により令和11(2029)年度を設定時期とする基準病床数が示されたことから、**基準病床数の見直しが必要**

５疾病・６事業及び在宅医療の各分野における共通検討内容

第１回栃木県医療審議会保健医療計画部会
令和8(2026)年6月30日　資料一部抜粋

- ５疾病・６事業及び在宅医療の各分野ごとに、以下のとおり中間見直しを実施
- 庁内ワーキンググループ内で情報共有し、各課・各担当間で連携を取りつつ対応

検討の流れ

１．現状把握	➢ **各指標のデータを更新（直近値を把握）** • 医療計画データブック（厚生労働省）のほか、必要に応じて各種オープンデータや「地域医療提供体制データ分析事業」で収集したデータ等を活用
２．評価、要因分析	➢ **ロジックモデルの再検証** • ８期計画策定時に作成したロジックモデルを見直し、必要に応じて指標の追加・変更を検討 ➢ **評価の実施** • 施策の進捗状況を確認 • 要因分析 ※現状が計画策定時の想定以下である場合や予定よりも進捗が遅れている場合等においては、その要因を分析する
３．課題設定	➢ **現状を把握、評価した上で、課題を設定** • データに基づき現状を把握、分析し、８期後期における課題を設定する
４．施策検討	➢ **課題解決に向けた主な取組、今後の施策の方向性を検討** • ８期計画の目標年度（R11年度）やその先を見据えた施策の方向性を整理する

1．栃木県保健医療計画（８期計画）の中間見直しについて

2．がん分野について

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況及び評価

➢（分野アウトカム）進捗状況及び計画終了時の目標

- **がんによる死亡率が減少している**
  - ・がんの75歳未満年齢調整死亡率は、直近値においては大腸及び乳が基準値より悪化しているが、全体としては改善している。
- **すべてのがん患者の苦痛の軽減並びに療養生活の質が維持向上している**
  - ・身体的・精神的苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合は、いずれも基準値より改善している。
- **がんになっても安心して暮らすことが出来る社会が構築されている**
  - ・現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合は、基準値より悪化（後退）している。

▲

➢（中間アウトカム・施策）進捗状況、要因分析及び対策

- **ロジックモデルの再検証の結果**
  - ・ロジックモデルを再検証した結果、栃木県がん対策推進計画との整合及び国の第4期がん対策推進基本計画中間評価報告の内容を踏まえると、本計画の分野アウトカム、中間アウトカム及び施策体系はおおむね妥当であることから、ロジックモデルの修正は行わないこととする。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況及び評価

➢（中間アウトカム・施策）進捗状況、要因分析及び対策

● **中間アウトカム（施策の進捗状況）**

（１）がんの予防及び早期発見

・がんの年齢調整罹患率は、直近値では、全がん、胃、大腸、肝及び肺では基準値より改善しているが、乳及び子宮は悪化している。

・早期がん割合は、直近値では、全がんは基準値より改善しているが、大腸及び肝は悪化している。胃、肺及び乳はほぼ横ばい。

（２）がん医療の充実

・がんの診断・治療に対するがん患者の総合的評価は、改善している。

（３）がん患者やその家族を支える環境整備

・家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合は、基準値から改善しているものの、50%を下回る水準である。

・がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがない人の割合は、改善している。

● **主な事業の実績**

・感染症に関する正しい知識の普及啓発、HPVワクチン接種の県民への理解と啓発（HPVワクチン接種率　R6:35.3%、R7:36.8%）

・栃木県がん診療連携協議会における均てん化・集約化に係る協議（R7:1回）

・がんピアサポーターによる相談支援の実施（拠点病院がんサロン等への派遣：R6:2件、R7:15件）

・アピアランスケアにかかる経費の助成（R4:849件、R5:953件、R6:1,008件、R7:1,148件）

・小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法等にかかる経費の助成

（R4:19件(妊孕性18、生殖1)、R5:13件(妊孕性11、生殖2)、R6:35件(妊孕性22、生殖13)、R7：39件(妊孕性25、生殖14））

・治療と仕事の両立支援セミナーの開催（R6:1回、R7:1回）

・がん専門医等やがん経験者による外部講師を活用したがん教育（R8.3.31登録数：19名）

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況及び評価

➢（中間アウトカム・施策）進捗状況、要因分析及び対策

● **要因分析**

（１）がんの予防及び早期発見について

・早期がん割合はおおむね横ばいで推移しており、がん検診受診率や精密検査受診率が十分な水準（がん検診：目標60%以上、精密検査：目標90%以上）に達していないことが関係している可能性がある。

（２）がん患者やその家族を支える環境整備について

・がん相談支援センター、緩和ケア、就労支援、ピアサポート等の患者支援施策の充実により、患者や家族が相談できる環境や療養生活を支える体制が整備されつつあり、がん患者の身体的・精神的苦痛の軽減や療養生活の質（QOL）の向上につながっていると考えられる。

・一方で、就労継続や収入減少への不安、社会参加や、高齢がん患者の増加に伴う慢性疾患、介護などへの対応、小児・ＡＹＡ世代の妊娠・出産や就学・就労への支援など、患者ニーズの多様化が進んでいることなどにより、病気や療養生活について相談できたと感じる患者が減少している可能性がある。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況及び評価

➢（中間アウトカム・施策）進捗状況、要因分析及び対策

● **８期後期の課題**

（１）がんの予防及び早期発見について

・大腸がん、乳がんを中心とした死亡率の改善が必要である。

・早期発見・早期治療のための、検診受診率（目標：60%以上）、精検受診率（目標：90%以上）に向けた取組の推進が必要である。

（２）がん患者やその家族を支える環境整備について

・がん相談支援センターやがんピアサポーターなどを中心とした相談支援体制の一層の充実を図る必要がある。

● **今後の施策の方向性（今後の取組）**

（１）がんの予防及び早期発見について

検診受診率・精検受診率を向上させるため、がん教育などがんに関する知識の普及啓発や、市町や民間企業等と連携した受診勧奨のほか、がん検診の精度管理体制の構築を推進する。

（２）がん患者やその家族を支える環境整備について

がん相談支援センターの認知度の向上、がんピアサポーターの養成と質の向上、医療機関等と連携した小児・ＡＹＡ世代のがん患者等への対応強化等により相談支援体制の一層の充実を図る。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

分野１　がんによる死亡率が減少している

指標１　　がんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）

区分	評価年度					
令和５年度 （策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度 （目標年度）
【基準値】※ 全がん 67.9 胃　7.7 大腸　9.7 肝　3.7 肺　11.3 乳　9.5 子宮　5.9 （2021年）	全がん 71.1 胃　7.0 大腸　10.8 肝　3.7 肺　12.6 乳　10.8 子宮　5.1 （2022年）	全がん 68.6 胃　6.0 大腸　11.2 肝　3.8 肺　11.0 乳　11.4 子宮　6.2 （2023年）	全がん 65.8 胃　6.0 大腸　10.8 肝　3.3 肺　9.9 乳　10.0 子宮　4.6 （2024年）			減少

指標２　　５年相対生存率　※令和７年度から５年純生存率

区分	評価年度					
令和５年度 （策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度 （目標年度）
【基準値】※ 全がん 63.9% 胃　62.7% 大腸　68.0% 肝　33.0% 肺　32.6% 乳　93.6% 子宮　79.3% （2009-2011年）	→	→	全がん　－% 胃　61.3% 大腸　66.8% 肝　31.8% 肺　31.7% 乳　90.0% 子宮　77.2% （2012-2015年）			増加

※　基準値は策定時点（令和５年度末）で把握できる最新の値としています。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

分野２　すべてのがん患者の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上している

指標１　**身体的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合**

区分	評価年度					
令和５年度 （策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度 （目標年度）
【基準値】※ 60.8% （2018年）	→	→	65.4% (2023年)			増加

指標２　**精神的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合**

区分	評価年度					
令和５年度 （策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度 （目標年度）
【基準値】※ 65.1% （2018年）	→	→	69.9% (2023年)			増加

※　基準値は策定時点（令和５年度末）で把握できる最新の値としています。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

分野３　がんになっても安心して暮らすことができる社会が構築されている

指標１　　現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合

区分	評価年度					
令和５年度 （策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度 （目標年度）
【基準値】※ 81.0% （2018年）	→	→	77.3% (2023年)			増加

※　基準値は策定時点（令和５年度末）で把握できる最新の値としています。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

中間１　がんの予防及び早期発見

指標１　　がんの年齢調整罹患率（人口10万対）

区分	評価年度					
令和５年度 （策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度 （目標年度）
【基準値】※ 全がん 377.5 胃　41.9 大腸　57.6 肝　12.1 肺　39.5 乳　100.0 子宮　33.9 （2019年）	全がん 370.6 胃　38.1 大腸　57.7 肝　10.5 肺　35.9 乳　101.4 子宮　34.7 （2021年）	全がん 367.5 胃　36.3 大腸　56.1 肝　9.8 肺　36.7 乳　102.2 子宮　37.6 （2022年）	全がん 367.0 胃　33.7 大腸　55.4 肝　10.6 肺　35.9 乳　103.6 子宮　36.5 （2023年）			減少

指標２　　早期がん割合（全国がん登録：進展度・総合、上皮内と限局）

区分	評価年度					
令和５年度 （策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度 （目標年度）
【基準値】※ 全がん 52.9% 胃　56.2% 大腸　58.5% 肝　63.3% 肺　33.4% 乳　64.5% 子宮　78.3% （2019年）	全がん 52.2% 胃　55.4% 大腸　56.5% 肝　57.6% 肺　32.9% 乳　64.0% 子宮　74.8% （2020年）	全がん 53.6% 胃　56.1% 大腸　57.9% 肝　61.9% 肺　33.5% 乳　64.6% 子宮　72.3% （2021年）	→			増加

※　基準値は策定時点（令和５年度末）で把握できる最新の値としています。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

中間２　がん医療の充実

指標１　**がんの診断・治療に対するがん患者の総合的評価**　**※10点を満点とする評価**

区分	評価年度					
令和５年度 （策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度 （目標年度）
【基準値】※ 8.0点 （2018年）	→	→	8.1点 （2023年）			増加

指標２　**納得のいく治療を選択できたと思うがん患者の割合**

区分	評価年度					
令和５年度 （策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度 （目標年度）
【基準値】※ 75.8% （2018年）	→	→	→			増加

※　基準値は策定時点（令和５年度末）で把握できる最新の値としています。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

中間２　がん医療の充実

指標３　院内がん登録数

区分	評価年度					
令和５年度（策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度（目標年度）
【基準値】※ 12,049件（2021年）	12,126件（2022年）	12,315件（2023年）	13,046件（2024年）			

指標４　手術件数

区分	評価年度					
令和５年度（策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度（目標年度）
【基準値】※ 9,353件（2021年）	9,213件（2022年）	9,057件（2023年）	9,085件（2024年）			

指標５　薬物療法患者数

区分	評価年度					
令和５年度（策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度（目標年度）
【基準値】※ 19,039件（2021年）	18,688件（2022年）	19,306件（2023年）	17,149件（2024年）			

※　基準値は策定時点（令和５年度末）で把握できる最新の値としています。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

中間２　がん医療の充実

指標３　放射線治療患者数

区分	評価年度					
令和５年度（策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度（目標年度）
【基準値】※ 3,083件（2021年）	3,194件（2022年）	3,360件（2023年）	3,173件（2024年）			

指標７　緩和ケアチーム新規患者数

区分	評価年度					
令和５年度（策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度（目標年度）
【基準値】※ 1,128件（2021年）	1,059件（2022年）	1,201件（2023年）	1,355件（2024年）			

※　基準値は策定時点（令和５年度末）で把握できる最新の値としています。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

中間３　がん患者やその家族を支える環境整備

指標１　家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合

区分	評価年度					
令和５年度（策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度（目標年度）
【基準値】※ 42.7%（2018年）	→	→	49.6%（2023年）			増加

指標２　がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがない人

区分	評価年度					
令和５年度（策定年度）	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度（目標年度）
【基準値】※ 68.9%（2018年）	→	→	74.1%（2023年）			増加

※　基準値は策定時点（令和５年度末）で把握できる最新の値としています。

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

施策

指標	現状値	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
①喫煙対策に関する効果的な普及啓発の実施							
20歳以上の者の喫煙率	17.6% (2022年度)			14.2% (2024年度)			
受動喫煙の機会を有する者の割合（職場・家庭・飲食店）	職場　20.0% 家庭　4.3% 飲食店 13.1% (2022年度)			職場　8.8% 家庭　6.5% 飲食店 9.9% (2024年度)			
②生活習慣（運動、食事、飲酒）の改善に関する効果的な普及啓発の実施							
食塩・野菜摂取量、 果物摂取量100g未満の者の割合、 運動習慣者の割合、 リスク飲酒者の割合	食塩　9.7g/日 野菜 292.8g/日 果物　63.5% 運動習慣者（20-64,65-） 男　22.0%,55.1% 女　20.3%,45.1% リスク飲酒者（20-） 男　15.5% 女　9.4% (2022年度)			食塩　10.0g/日 野菜 274.6g/日 果物　78.9% 運動習慣者(20-64,65-) 男　29.8%,50.7% 女　20.5%,40.9% リスク飲酒者（20-） 男　14.7% 女　8.8% (2024年度)			

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

施策

指標	現状値	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
③肝炎に関する普及啓発、肝炎ウイルス検査陽性者へのフォローアップ・治療の推進							
肝炎ウイルス検査受検率 （国保加入者40歳検診対象者）	13.8%(B型) 14.0%(C型) (2022年)	15.5%(B型) 15.5%(C型) (2023年)	15.1%(B型) 15.0%(C型) (2024年)	→			
④子宮頸がん及びHPVワクチン接種に関する県民の理解の促進							
HPVワクチン実施率	38.7% (2021年)	20.8% (2023年)	35.3% (2024年)	36.8% (2025年)			

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

施策

指標	現状値	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
⑤がん検診の受診率・精検受診率向上に向けた取組							
⑥がん検診の職域における取組の促進							
⑦がん検診の精度管理における取組の促進							
がん検診受診率	胃　39.5% 大腸　45.7% 肺　52.4% 乳　49.9% 子宮頸 43.1% （2022年）	→	→	胃　44.9% 大腸　52.0% 肺　58.5% 乳　54.6% 子宮頸 47.0% （2025年）			
精密検査受診率	胃　86.2% 大腸　68.9% 肺　85.1% 乳　91.9% 子宮頸 86.5% （2020年）	胃　84.4% 大腸　67.2% 肺　82.4% 乳　91.1% 子宮頸 86.8% （2021年）	胃　83.7% 大腸　65.3% 肺　83.7% 乳　93.2% 子宮頸 87.0% （2022年）	→			

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

施策

指標	現状値	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
⑪緩和ケアにおける地域連携の促進及び提供体制の整備							
身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると思う患者の割合等	37.3% (2018年)			36.4% (2023年)			
⑫がん医療に係る人材の確保及び育成等							
緩和ケア研修会修了者数 （拠点病院等以外の施設の医師・歯科医師）	300人 (2022年)	467人 (2023年)	487人 (2024年)	494人 (2025年)			

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

施策

指標	現状値	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
⑬相談支援体制の充実							
がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	92.2% （2018年）	→	→	64.8% （2023年）			
⑭がん患者の就労支援							
がんの治療等のために通院しながら働き続けられる環境にあると思う県民の割合	25.0% （2018年）	→	→	→	→		
⑮自殺リスクに対する相談体制の整備やがんの正しい理解への普及啓発							
精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合 ※思わないと回答した割合	65.1% （2021年）	→	→	69.9% （2023年）			
がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じる割合	16.8% （2018年）	→	→	20.3% （2023年）			

計画の中間見直しについて

がん分野の主な指標の進捗状況

施策

指標	現状値	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
⑯小児・AYA世代のがん患者支援の充実							
妊孕性温存療法・温存後生殖補助医療費助成件数	19件 (2022年)	13件 (2023年)	35件 (2024年)	39件 (2025年)			
アピアランスケア助成件数	849件 (2022年)	953件 (2023年)	1,008件 (2024年)	1,148件 (2025年)			
在宅ターミナルケア実施市町数・助成人数	4市・15人 (2022年)	5市・36人 (2023年)	8市・25人 (2024年)	9市・37人 (2025年)			

指標	現状値	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
⑲高齢がん患者とその家族等の療養生活を支えるための体制整備							
人生会議（ACP）に係る認知度	21.4% (2022年)	→	→	19.9% (2025年)			
⑳学校におけるがん教育を推進するための環境整備							
がんについての認知度（治療法等）	69.8% (2022年)	→	→	→			